

「北海道胆振東部地震」 根室も“ブラックアウト”に

6日未明に胆振管内で発生した震度7の地震の影響で、苫東厚真火力発電所が緊急停止。北海道内の電力の需給バランスが崩れ、根室市を含む道内全域で停電となりました。

市民生活に大きな影響

地震発生直後の6日午前3時過ぎから全面停電となりました。根室市でも震度2（一部で3）を記録しましたが、未明という時間帯のため、朝目覚めてから停電に気づいたという方がほとんどであったと思われる。

浄水場など、上下水道関係の施設も停電になりましたが、非常電源で対応。水の供給は止まりませんでした。ただし、公営住宅などの高層の建物では、揚水ポンプへの電源供給がストップし、断水となりました。根室市はただちに給水車を出動して対応にあたりました。

市立根室病院でも非常電源で対応しています。停電のため、市内すべての信号がストップ。要所の交差点では警察官が交通整理を行っていました。のち、発電機で対応していましたが、事故も発生していたようです。

復旧後も続く影響

市内では、6日午後11時過ぎに市役所、市立病院など中心部から復旧し、7日午後9時過ぎまでに全域で復旧しました。地震発生から実に42時間ぶりでした。

市内の小売店、ガソリンスタンドなどは順次営業を開始。しかし、ガソリンスタンドでは一部を除き給油制限、営業時間の短縮などの措置が取られていました。食料品の小売店も、冷凍食品や乳製品などが品不足となりました。

なぜ道内全域が停電に？

震源地に近い発電所が停止して、なぜ遠く離れた根室市まで影響を受けたのか、疑問を持たれた方も多いと思います。「電力の需要と供給のバランス」などといわれていますが、要は、北海道の電力供給の大部分を、苫東厚真に一極集中していたことが大きな要因と考えられます。一極集中はコスト面、管理面でメリッ

今回の停電を経験して

まずは情報を正しくつかむことが重要です。テレビが視聴できない状況になったので、頼りになるのはラジオです。電池対応、災害対応のラジオを用意しておきましょう。

今後の課題としては、公営住宅の揚水ポンプ用非常電源の設置、携帯電話の充電ブースの拡大、防災無線など情報伝達手段の改善、停電が長引いた場合の食料確保のあり方等々、考えていかなければならないことがたくさんあります。党議員団は、市民のみならず行政に伝え、みなさんと力を合わせて「災害に強いまちづくり」をすすめてまいります。

原発再稼働で回避？

「泊原発を稼働していれば、今回の停電は回避できた」と考えている方もいらっしゃるかもしません。しかし、リスクの分散が重要であつて発電所の種類（火力か水力か原子力か）は、この際無関係です。むしろ、巨大地震などで甚大な被害をもたらす可能性が高い原発は、ただちに廃炉にすべきではないでしょうか。

伝えてあげましょう。「計画停電」の有無にかかわらず、地球温暖化抑制、資源の有効活用の観点からも節電は大切です。

根室市の対応は、6日午前6時過ぎに災害対策本部を設置し、情報収集と市民対応にあたっていました。また、住宅の高層階にお住まいの高齢者や障がい者など、水を運ぶのが困難な方への対応も、党議員団の要望もあり、迅速に行いました。